

短 報

常願寺川河川敷でウスバカマキリを複数確認

岩田 朋文

富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

**Some Records of *Mantis religiosa*
(Linnaeus, 1758) from Jôganji-gawa River,
Toyama Prefecture, Central Japan**

Tomofumi Iwata

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus, 1758) は、河川敷、原野、茅場などの草原にすむカマキリ科 Mantidae の一種である (中峰, 2016)。本種は、生息地が局地的で個体密度も低いため、草地の開発や管理放棄などで容易に減少する可能性があると考え (市川, 2015)、『レッドデータブック2014』 (市川, 2015) およびその改訂版にあたる『環境省レッドリスト2020』 (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020) では情報不足と評価されている。

富山県では7地点から記録されており (岩田・佐々木, 2021; 岩田, 2023), このうち立山町西芦原 常願寺川公園付近 (岩田・佐々木, 2021) と富山市西中野町 城南公園 (岩田, 2023) では、最近 (2020年以降) でも確認されている。しかし、依然として県内記録は多くないため、引き続き分布情報の蓄積が必要な状況である。

筆者は、2023年に常願寺川河川敷で確認された本種の記録をいくつか入手したので、県内追加記録として報告する。

2. 記録

1♂, 富山県立山町西芦原 常願寺川河川敷, 17.IX. 2023, 鳥越 湊採集, 富山市科学博物館所蔵, 標本登録番号TOYA-Ji-53379 (図1A, B); 1頭 (性別未確認), 同所, 21.IX. 2023, 筆者撮影 (図1C); 1♂2♀, 同所, 24.IX. 2023, 清水栞利・清水明利紗・響田智広捕獲, すべて筆者撮影 (図1D~F)。

3. 記録地点の環境と採集状況

記録地点は、いずれも河口から約8.5 km遡上した常願寺川河川敷である。周辺は、川の左岸側には住宅地が広がり、右岸側には主に水田が広がっている。河川敷には、直径20 cm前後の礫が露出する礫河原や、背の低い草本が生育する草地が広がっている。また、堤防を隔てて、芝生広場やテニスコート、野球場などが整備された都市公園 (常願寺川公園) がある。

採集者の鳥越氏によると、9月17日に採集された個体は、河川敷の路上で確認されたとのことである。9月21日に筆者が撮影した個体は、草刈り直後の堤防の斜面部分で確認された。9月24日に捕獲された3頭は、堤外地の礫河原もしくは背の低い草本が生育する部分で確認された。この3頭は、富山市科学博物館の普及教育行事とやまの自然探検「昆虫採集にいこう!」の最中に、参加者によって捕獲されたものである。

4. 考察

本稿により、常願寺川河川敷で2023年に計5頭が記録された。同河川敷では、これまでも1986年に1頭、2012年に2頭、2020年に1頭が確認されており (岩田・佐々木, 2021), さらに、同河川敷と推測される地点で1968年に1頭が確認されている (瀬川, 1979; 岩田・佐々木, 2021)。複数年にわたって生息が確認されていることに加え、単年で複数頭が確認されたことから、同河川敷では本種が現在でも安定して生息するものと考えられる。したがって、岩田・佐々木 (2021) も指摘しているとおり、同河川敷は県内の個体群にとってきわめて重要な生息地と考えられる。

5. 謝辞

本稿を記すにあたり、捕獲個体を筆者まで提供くださった鳥越 湊氏、響田智広氏、清水明利紗氏、清水栞利氏、および各氏の保護者の皆様にお礼申し上げる。

6. 引用文献

- 市川 顕彦, 2015. ウスバカマキリ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5 昆虫類, p. 455. ぎょうせい.
- 岩田朋文, 2023. 富山市の城南公園におけるウスバカマキリの確認例2題. 富山市科学博物館研究報告, (47): 45–46.
- 岩田朋文・佐々木雅希, 2021. 富山県におけるウスバカマキリの全記録. 富山市科学博物館研究報告, (45): 9–13.

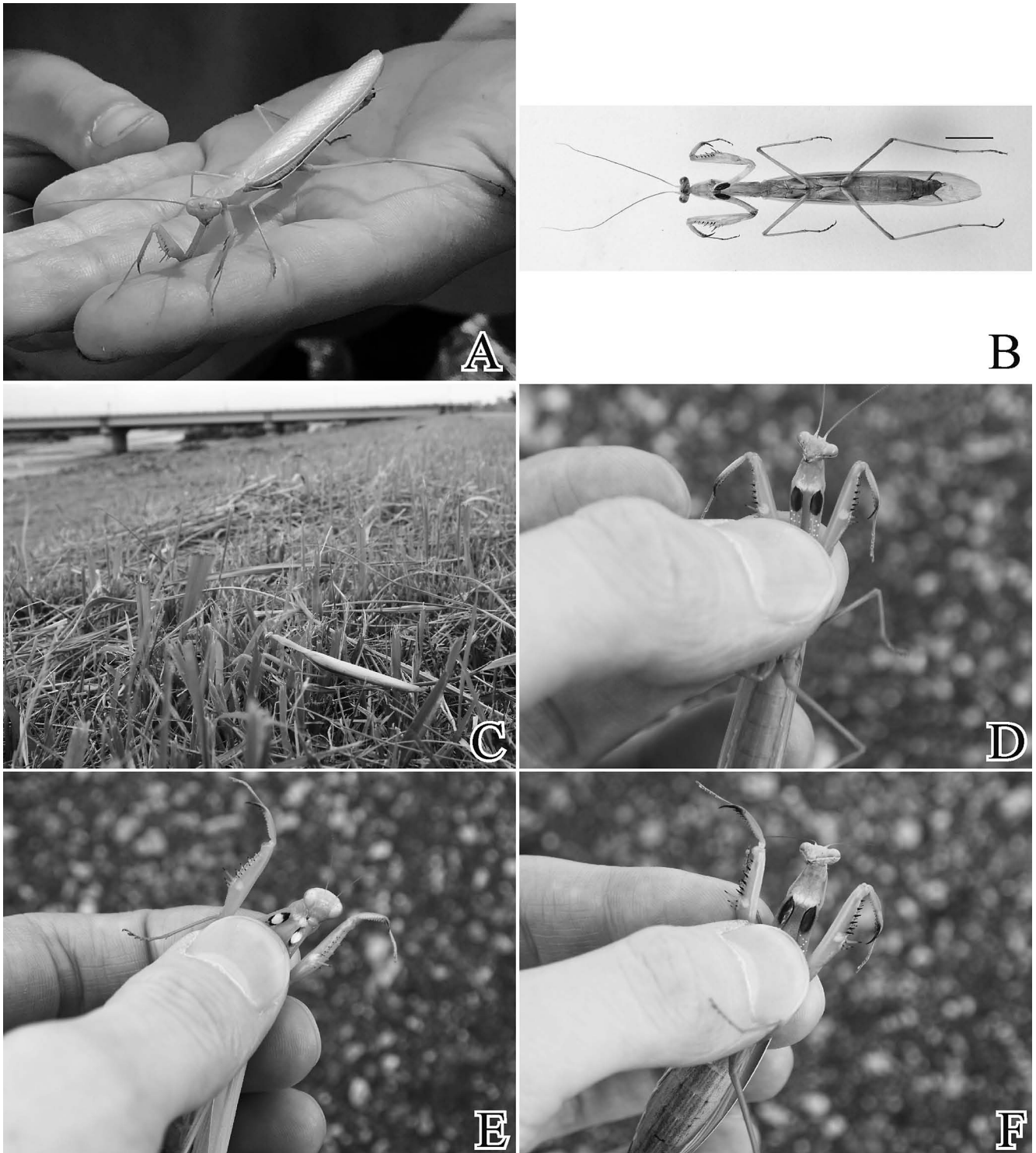


図1 2023年に常願寺川河川敷で確認されたウスバカマキリ。A, 9月17日採集の緑型オス（生体写真）；B, A個体の腹面（スケールバーは10.0 mm）；C, 9月21日撮影の淡褐色型個体；D, 9月24日撮影の緑型オス；E, 9月24日撮影の緑型メス；F, 9月24日撮影の淡褐色型メス。

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020
環境省レッドリスト2020, 131p. 環境省自然環境局
野生生物課希少種保全推進室. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>. (2023年9月28日アクセス.)

中峰 空, 2016. カマキリ目. 町田龍一郎 (監修) 日本
産直翅類標準図鑑, pp. 198-205. 学研プラス.
瀬川哲夫, 1979. 直翅目. 富山県の昆虫, pp. 64-74.
富山県.